



<策定の背景>

第Ⅲ章

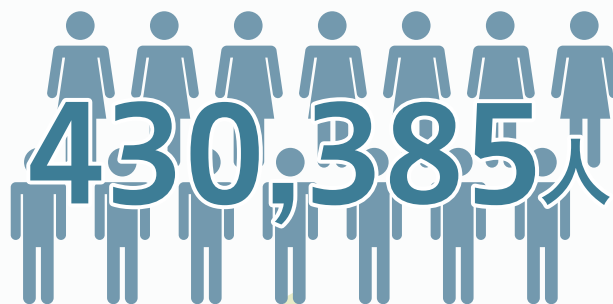
まちだ未来づくりビジョン2040 策定の背景

町田市って...

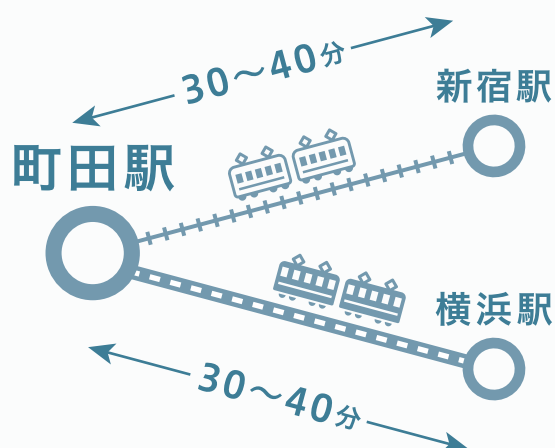
東京都の南の
端っこにあります！



町田市人口 (2022年1月1日時点)



都心、横浜から電車で
アクセスしやすい！



小田急小田原線
1日の平均乗降人員
(2020年度)



新宿駅に次ぐ

第2位

JR横浜線
1日の平均乗車人員
(2020年度)



第1位

市の木



市の花



市の鳥



▶▶▶ 年少人口の転入超過数ランキング

(政令指定都市を除く)



町田市は、ユニセフ主唱の「子どもにやさしいまちづくり事業」に参加し、日本ユニセフ協会と共に「日本型モデル」を構築して国内普及の礎を作りました。

その結果、日本初となる「子どもにやさしいまち」として承認されました。2019年には、ドイツで開催された「子どもにやさしいまち世界サミット」に町田市が日本から唯一参加しました。

▶▶▶ 子どもセンター 子どもクラブ数



▶▶▶ 冒険遊び場数



地区協議会 市内全 10 地区

市全域に設置されている自治体は、都内では3自治体のみです。

「地区協議会」とは、地区の課題解決や魅力発信・向上に取り組むネットワーク組織で、町内会・自治会連合会の地区連合会などの様々な団体が、各地区の特性と資源をいかして主体的に取り組んでいます。

▶▶▶ 緑地面積 (2020年度)



▶▶▶ 小売業の 年間商品販売額 (2016年度)



1

町田市は こんなまちです

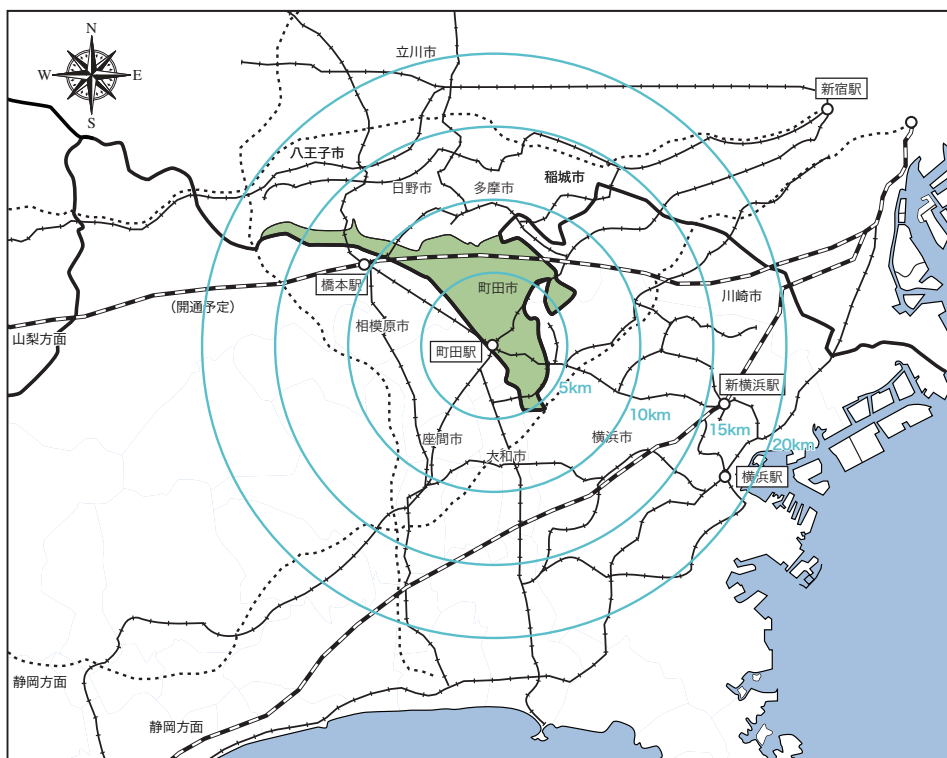
(1)町田市はここにありますが

- 町田市は、東京都の西南に位置し、都心から西南30～40km、横浜市中心部から西北20～30kmの距離に位置しています。市域は、東西22.3km、南北13.2km、面積71.55㎢で、多摩26市で4位の広さです。
- 地形は、多摩丘陵の北部域に位置し、市域の南西側は境川によって区切られています。丘陵域は鶴見川、境川の源流域となっているため、都心近郊にありながら、豊かな自然環境を有しています。

(2)交通の結節点と言われています

- 市域の主要な交通網のうち、鉄道はJR横浜線、小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の4路線が通っています。町田駅から新宿駅、横浜駅は、共に約30～40分程度で結ばれ、広域的な公共交通の利便性に恵まれているものの、どの路線も市域の外縁部を通っているため、市内を移動するための主な公共交通の手段はバスとなっています。
- 幹線道路は、市の南端に東名高速道路の横浜町田インターチェンジがあるほか、国道16号や国道246号といった広域幹線道路へもアクセスしやすい位置にあります。

町田市の広域的な位置

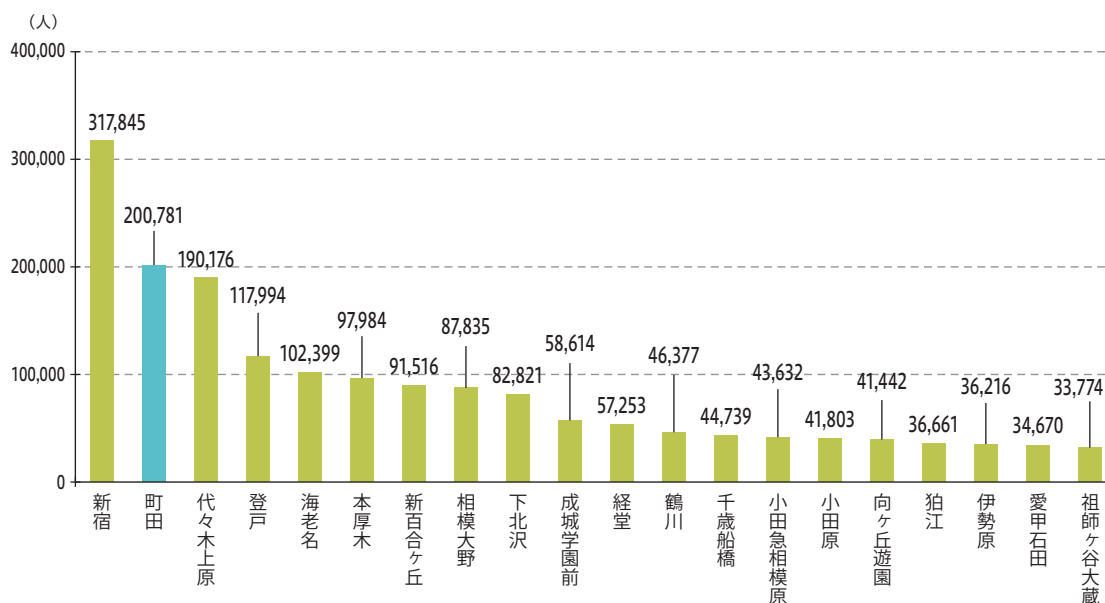




- 小田急小田原線とJR横浜線が交差する町田駅は、1日の平均乗降人員・乗車人員が小田急小田原線では新宿駅に次ぐ第2位、JR横浜線では第1位です。

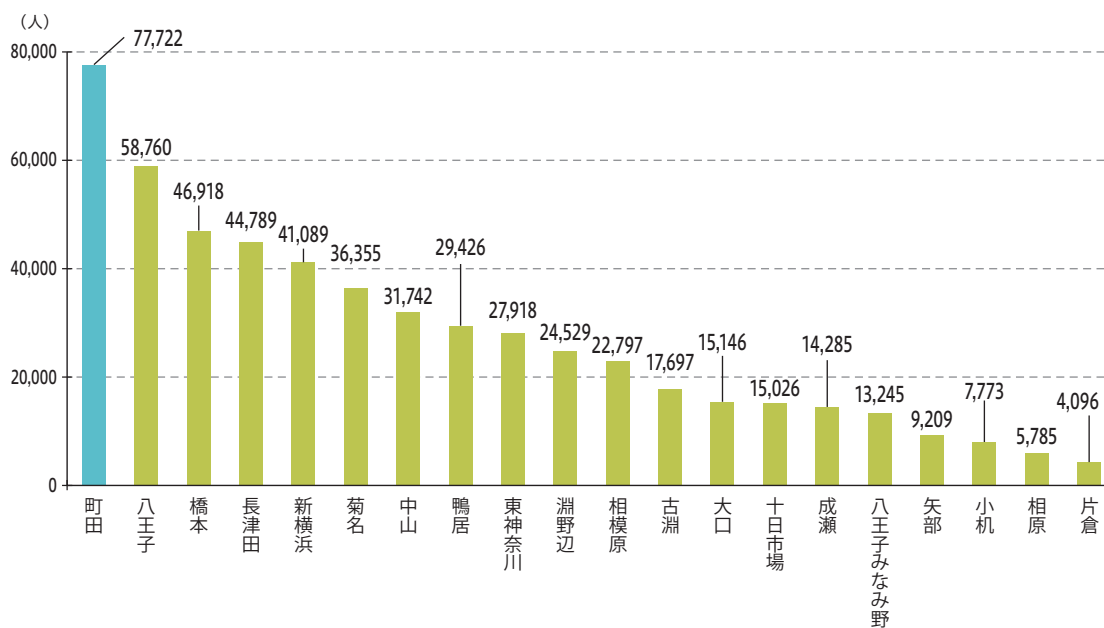
小田急小田原線の各駅1日平均乗降人員(上位20駅)

出典:小田急電鉄(株)資料(2020年度)



JR横浜線の各駅1日平均乗車人員

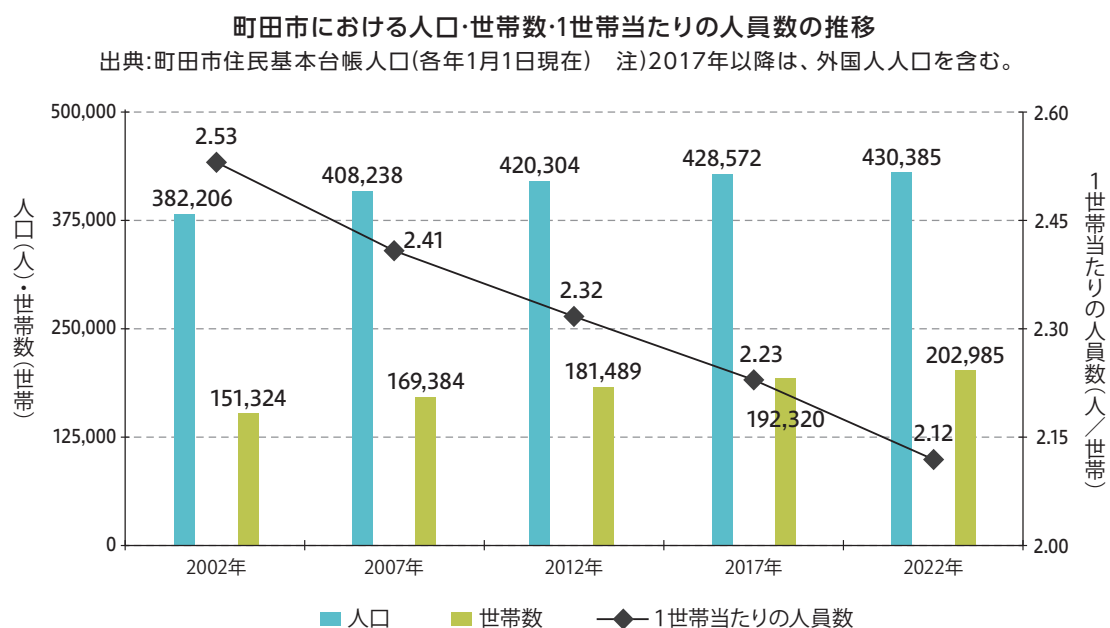
出典:東日本旅客鉄道(株)資料(2020年度)



(3)子育て世帯から選ばれています

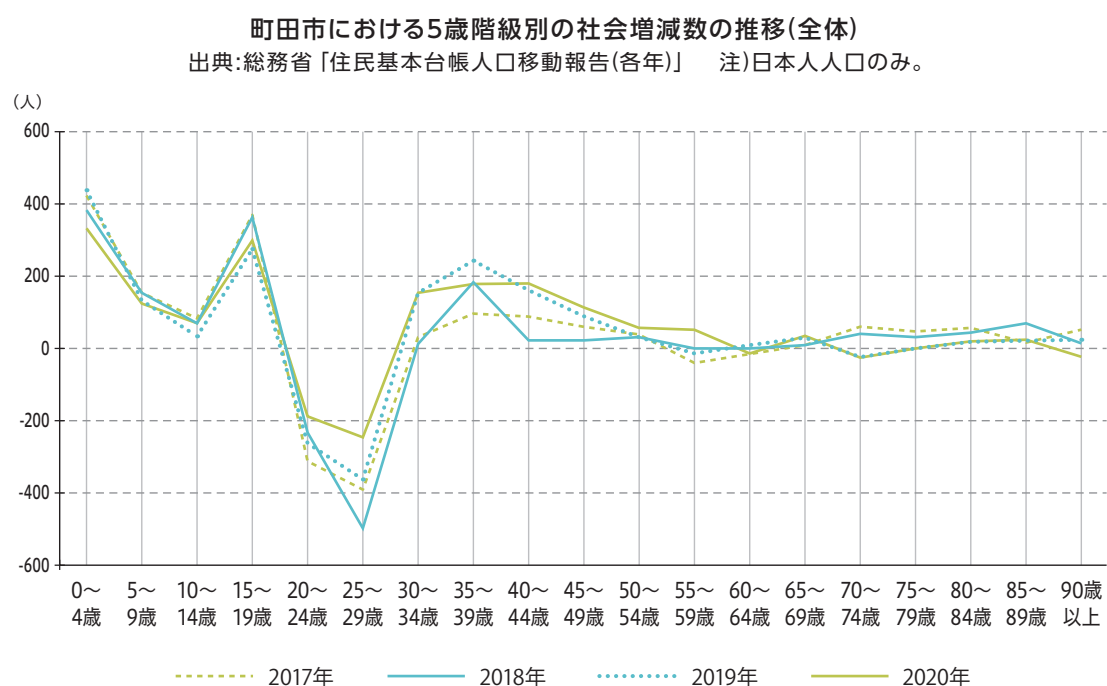
<人口・世帯数>

- 2022年1月1日時点の人口は43万385人であり、2002年の38万2,206人の約1.13倍となっています。また、世帯数は、20万2,985世帯で、2002年の15万1,324世帯と比べて約1.34倍に増加しています。



<人口移動>

- 「住民基本台帳人口移動報告」に基づき、2017～2020年における社会増減数の推移をみると、0～19歳及び35～44歳は概ね転入超過*傾向にあります。対して、20～29歳は転出超過が続いています。

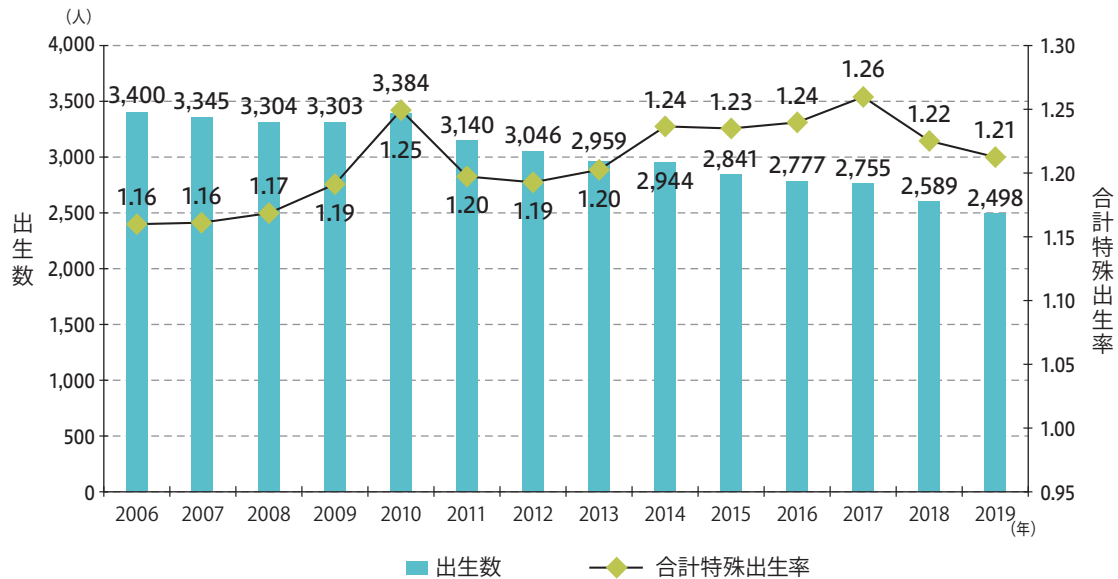




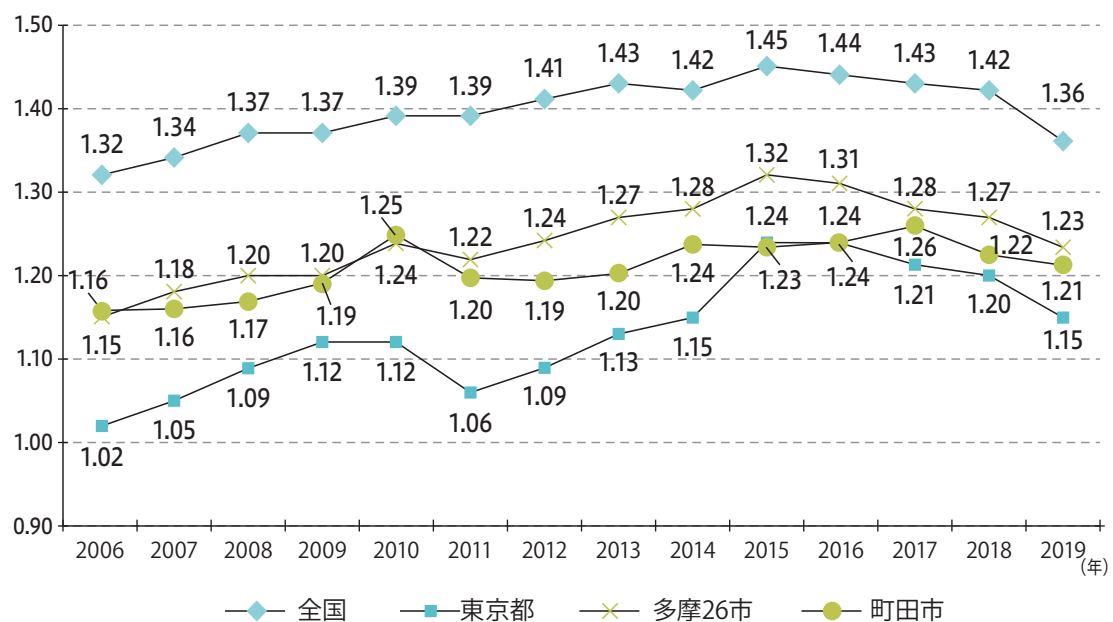
<出生数と合計特殊出生率>

- 町田市における出生数を見ると、2010年までは3,200～3,400人前後を維持してきたものの、2011年以降は年々減少しています。一方、合計特殊出生率は概ね上昇傾向にありましたが、2017年の1.26をピークに減少しています。

町田市における出生数と合計特殊出生率の推移
出典:東京都福祉保健局「人口動態統計」



合計特殊出生率の推移の比較
出典:厚生労働省「人口動態統計」

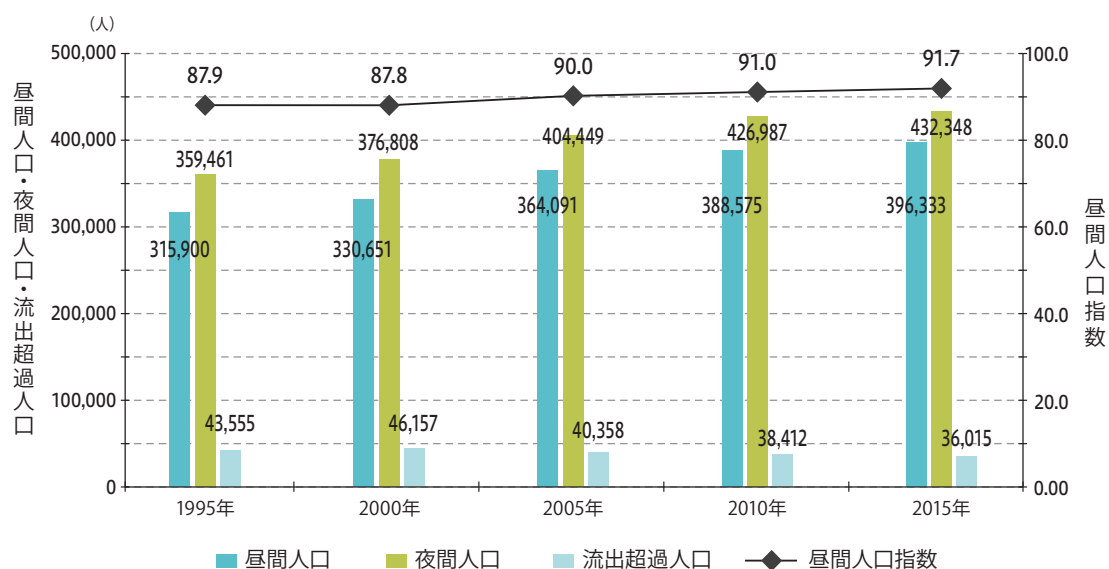


<昼夜間人口>

- 昼間人口は1995～2015年まで一貫して夜間人口を下回っており、流出超過の傾向にあります。流出超過人口は1995年の43,555人から2015年の36,015人へ7,540人(17.3%)減少しており、昼間人口指数は1995年の87.9から2015年の91.7へ3.8増加しています。

町田市における昼間人口・夜間人口などの推移

出典:総務省「国勢調査(各年10月1日現在)」

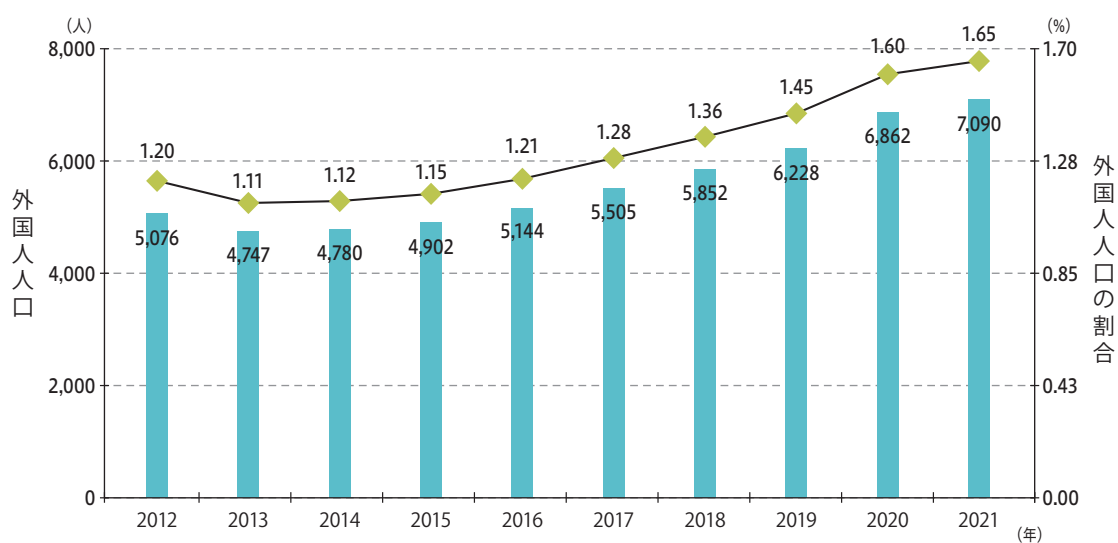


<外国人人口>

- 外国人人口は2013年までは減少傾向で推移してきたものの、その後は増加傾向に転じ、2013年の4,747人から2021年には7,090人へ2,343人(49.4%)増加しています。また、総人口に占める外国人人口の割合は2021年に1.65%となっています。

町田市における外国人人口の推移

出典:町田市統計書(各年1月1日現在)

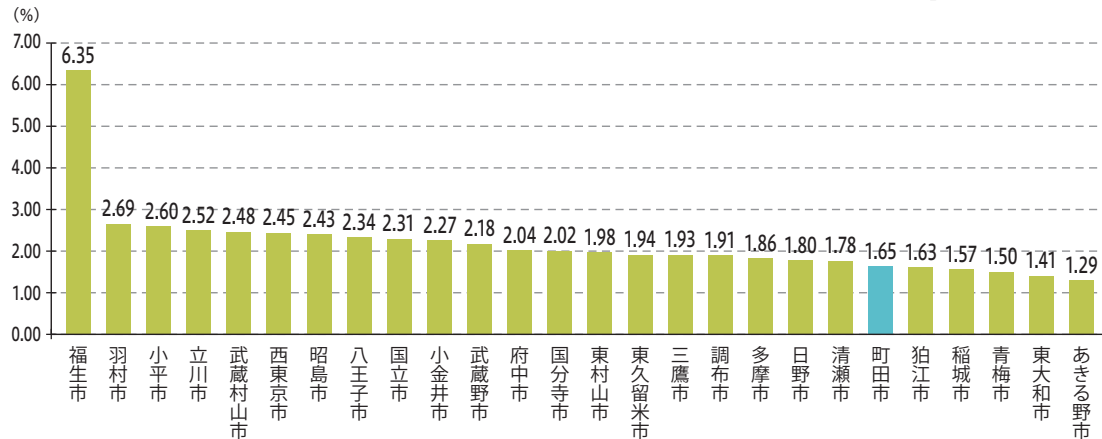




- 外国人人口の割合は、多摩26市で低い方から6番目と相対的に外国人人口の割合が低い水準にあります。

外国人人口の割合の都市間比較

出典:東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口(2021年1月1日現在)」



(4)子どもにやさしいまちです

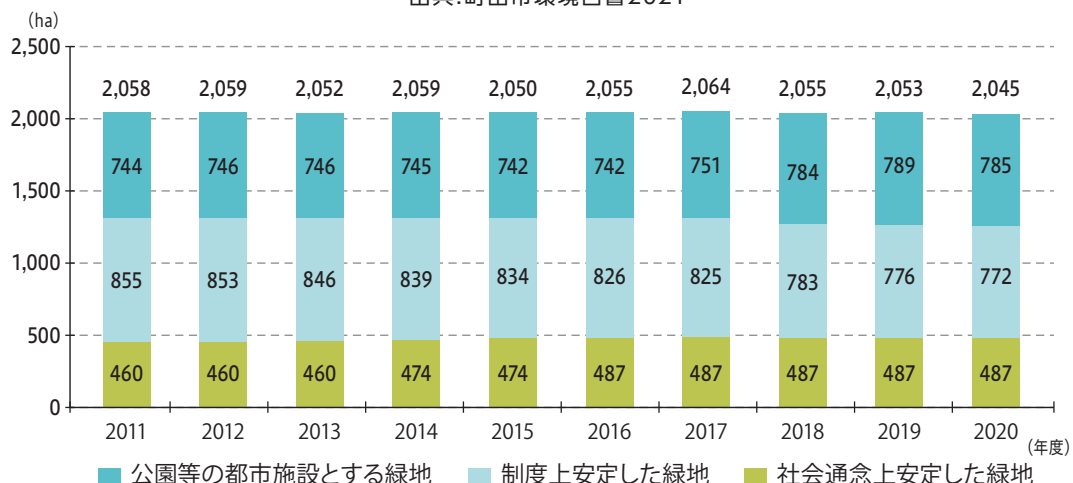
- 町田市は、保育所などの整備を通じた待機児童*解消の取り組みや、子どもセンターや冒険遊び場の設置などによる子どもの居場所づくりが子育て世帯から評価された結果、2016年の年少人口の転入超過数が全国の市区町村(政令指定都市を除く)の中で第1位になり、近年、全国上位を維持しています。
- 町田市は、上記の取り組みに加え、市民参加型事業評価に高校生を評価人として迎えるなど、市の事業への子どもの参画の取り組みが評価され、(公財)日本ユニセフ協会CFCI委員会から「ユニセフ日本型子どもにやさしいまちづくり事業実践自治体」として承認されています。

(5)みどりがいっぱいあります

- 身近な「公園等の都市施設とする緑地」や、生産緑地、風致地区、ふるさとの森に代表される「制度上安定した緑地」、学校や社寺境内地などの「社会通念上安定した緑地」などを含めると、町田市全体の公園などの緑地面積は2020年度で2,045haとなり、市域面積の28.6%を占めています。

町田市における公園などの緑地面積

出典:町田市環境白書2021



- 生産緑地は212.7ha、1,023地区あり、対市街化区域面積比は3.9%となっています。また、生産緑地地区決定面積は多摩26市で2位の広さです。

生産緑地面積の都市間比較(決定面積の大きい順)

出典:国土交通省「令和2年都市計画現況調査(2020年3月31日現在)」

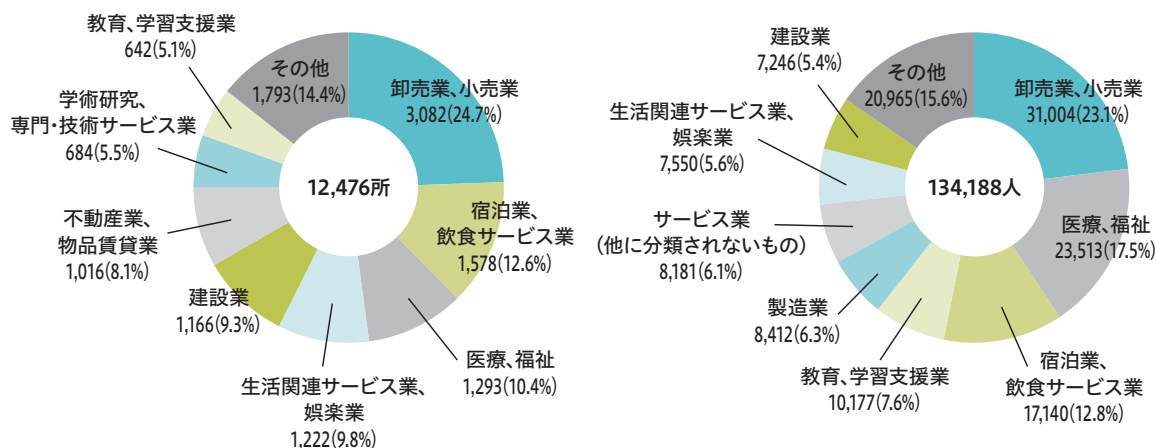
順位	市名	市街化区域※ 面積 (ha)	生産緑地		
			決定面積 (ha)	地区数 (地区)	対市街化区域 面積比(%)
1	八王子市	8,151	226.9	1,046	2.8
2	町田市	5,482	212.7	1,023	3.9
3	立川市	2,083	198.1	372	9.5
4	清瀬市	1,019	166.5	255	16.3
5	小平市	2,046	161.5	352	7.9
6	国分寺市	1,280	133.9	305	10.5
7	三鷹市	1,650	132.3	291	8.0
8	調布市	2,183	127.9	704	5.9
9	東村山市	1,696	123.5	327	7.3
10	東久留米市	1,148	122.4	261	10.7

(6)商都町田と呼ばれています

- 事業所数では「卸売業、小売業」が最も多く3,082事業所で、次いで「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の順となっています。また、従業者数でも、「卸売業、小売業」が最も多く31,004人で、次いで「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」の順となっており、「商都町田」と称されるように、商業の存在感が大きい産業構造となっています。

町田市における産業大分類別の事業所数及び従業者数の構成

出典:総務省「平成26年経済センサス基礎調査(2014年7月1日現在)」

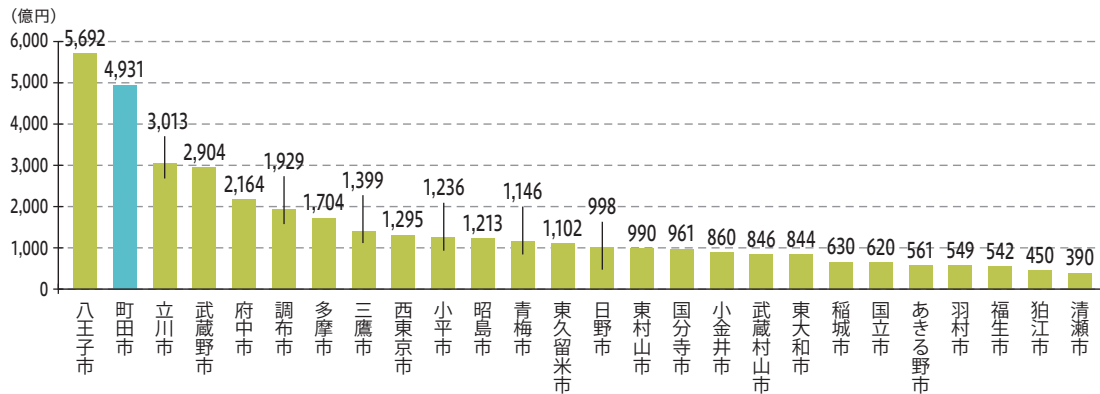




- 小売業の年間商品販売額は、4,931億円となっており、多摩26市で2位です。

小売業年間商品販売額の都市間比較

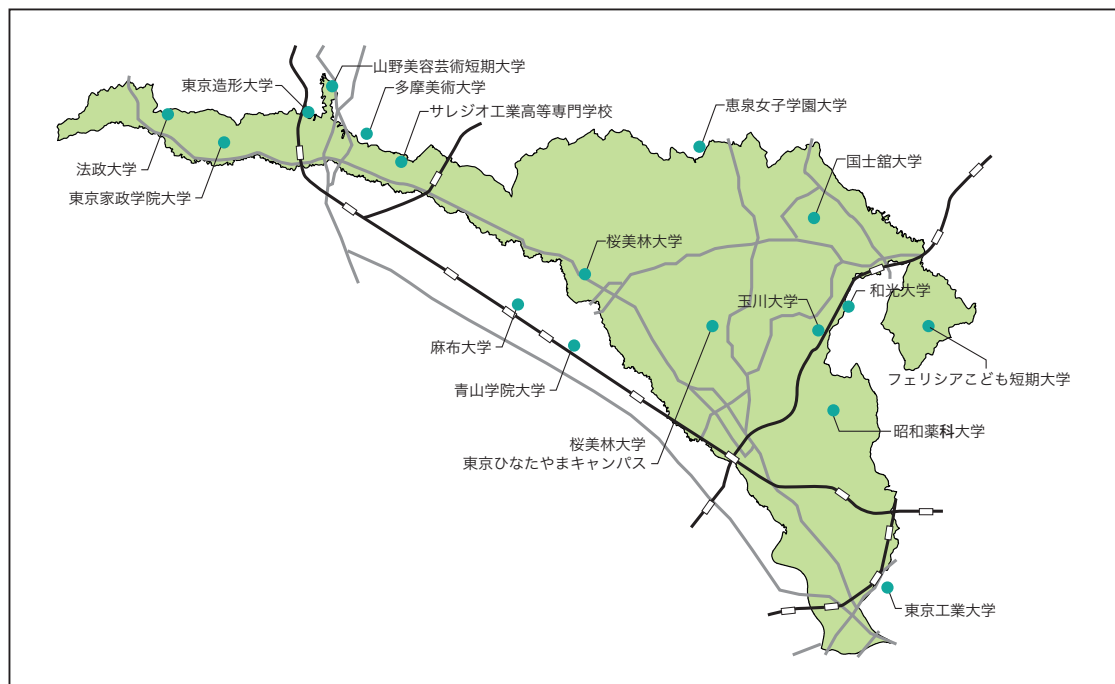
出典:総務省・経済産業省「平成28年経済センサス活動調査(2016年6月1日現在)」



(7)大学も多く学生もたくさんいます

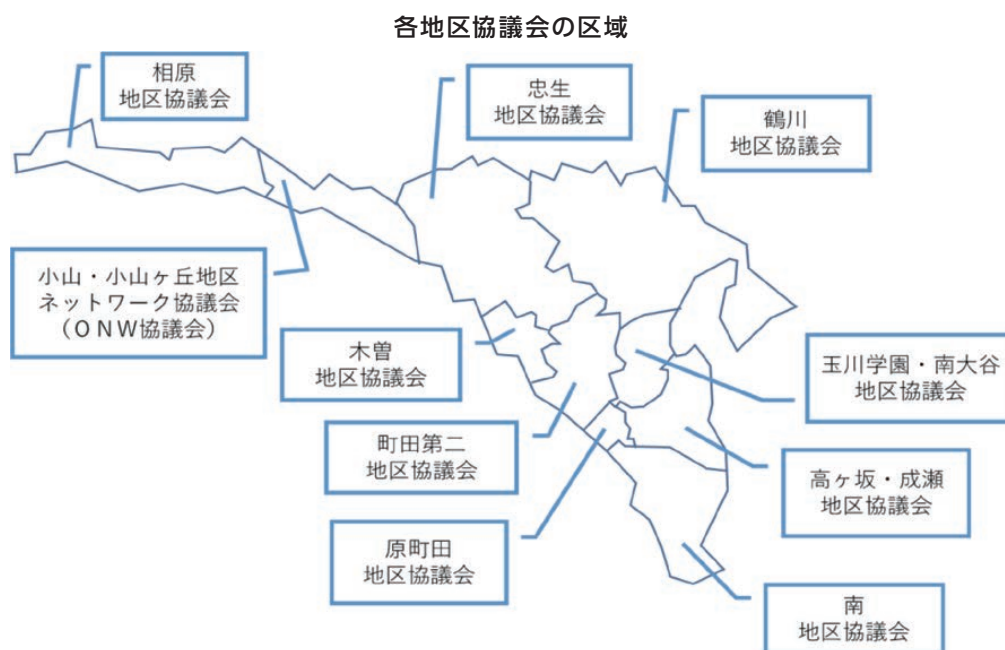
- 市内や隣接地域には多くの大学、短期大学、専門学校などがあります。そのため、学生の年代である、15～19歳の転入超過数が多いという特性があります。
- 教育・文化のまちを形成するため、町田市を生活圏とする大学などと協力して町田市学長懇談会を開催しており、参加校の学生総数(町田圏域)は約5万人にのぼります。

町田市学長懇談会参加校



(8)地域活動が盛んです

- 町田市町田会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の3団体をはじめとした様々な団体が集まり、知恵を出し合い、協力しながら地区の課題解決や魅力向上に取り組むネットワーク組織「地区協議会」が市内全10地区で設立され、地区の特性に合わせた様々な事業に取り組んでいます。



- 市民、地域団体、事業者などが、自らの「やってみたい夢」を賛同者の協力を得ながら、主体的に実現させていく取り組み「まちだ〇ごと大作戦18-20⁺¹※」に、316の事業エントリー、200万人以上の参加があるなど、市民活動・地域活動に積極的な土壌があります。



【取り組み事例①】

「町田木曽水かけ祭り」

地域の道路を一部封鎖して、消防団による放水訓練や参加者が水鉄砲を使って水をかけ合う非日常的な取り組み。町内会・自治会の会員数の増加や消防団員不足の解消、地域のつながりや子どもの思い出づくりにつなげたいという主催者の想いで実施。



【取り組み事例②】

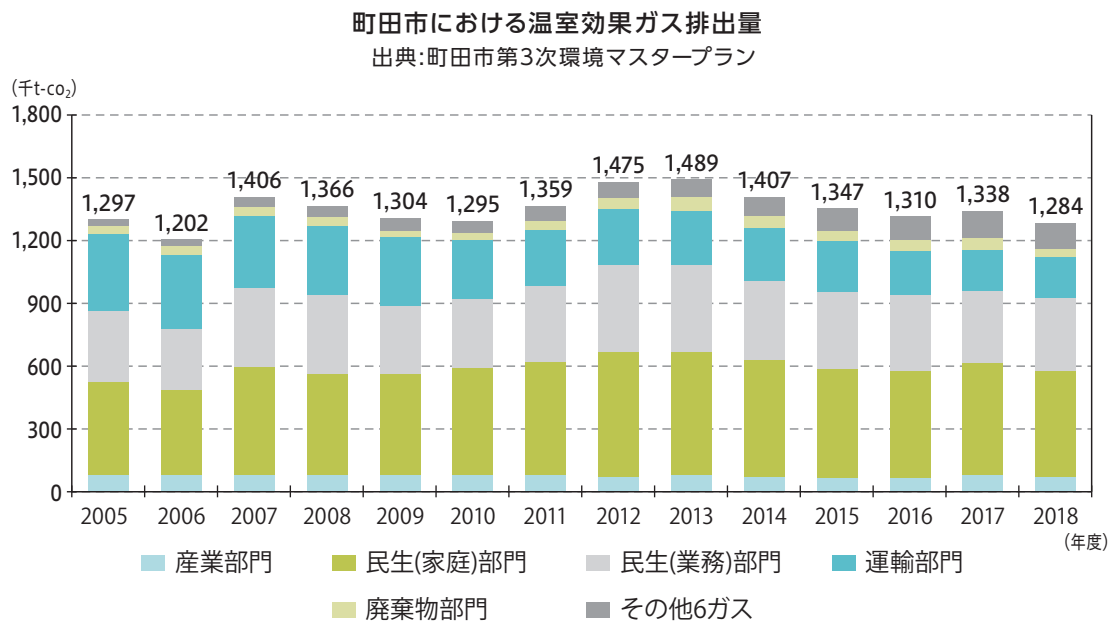
「ようこそ! 鶴川OMOTENASHI大作戦」

鶴川にある3つの古民家運営者と鶴川地区町内会・自治会連合会が一緒になって、新たな鶴川の魅力づくりを行いたいという想いで、香山園や各古民家で日本文化が体験できる取り組みを実施。



(9)町田市で地球温暖化はすすんでいるのか

- 2005年度からの温室効果ガス排出量は、年度ごとに変動がありますが、ほぼ横ばい傾向にあります。

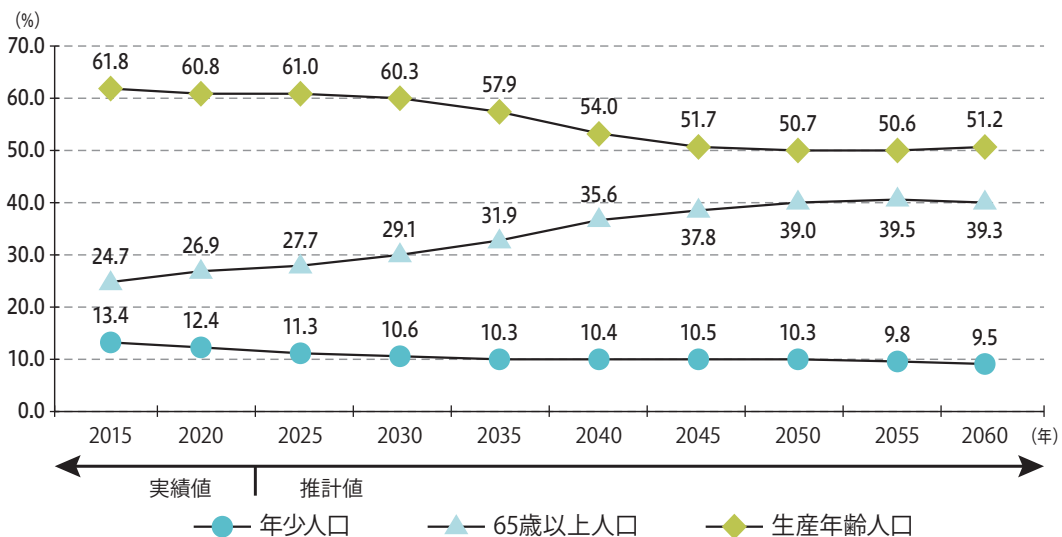
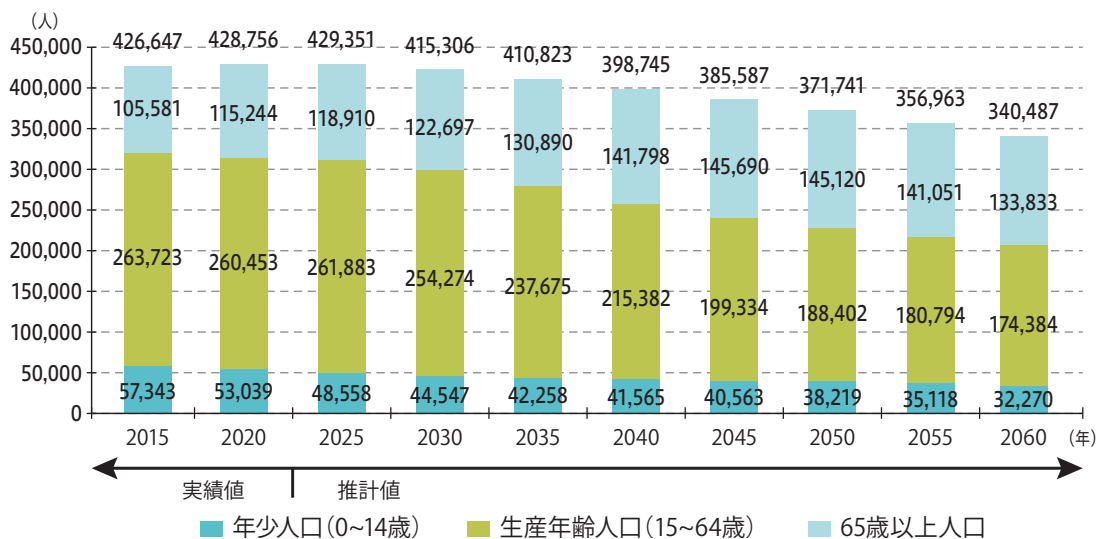


社会経済状況の変化

(1)人口減少と人口構成の変化

- 町田市が行った将来人口推計(2021年度実施)の結果に基づき、2025年以降の推移をみると、近い将来、総人口は長期にわたる減少局面に移行します。その減少幅は年を経るごとに拡大し、2040年には40万人を割り込むおそれがあります。
- 年齢階層別にみると、0～14歳の年少人口は2025年に5万人を割り込んだ後、2050年には4万人を切るところまで減少します。同様に、15～64歳の生産年齢人口は2030年頃から減少傾向がより一層進行すると予測されています。一方、65歳以上人口は、一貫して増え続け、2040年には14万人を超える水準に達すると予測されており、特に75歳以上人口は2055年まで増加し続けることが見込まれています。

町田市における将来人口の推計結果

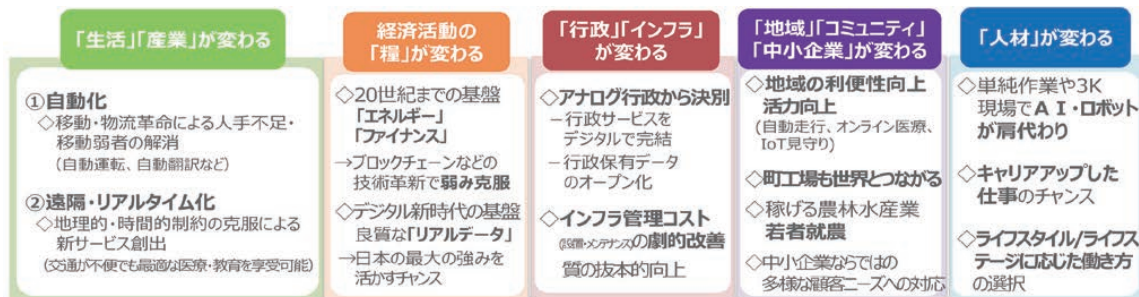




(2)テクノロジーの発展

- 近年、実社会の中であらゆる事業・情報がデータ化され、ネットワークでつながる「IoT」、コンピュータが自ら学習し、人間を超える高度な判断を行う「AI」、多様かつ複雑な作業を自動化する「ロボット」などに代表される、「第4次産業革命」と称される技術革新が世界規模で従来にないスピードとインパクトで進展しています。
- コロナ禍は社会のあり方そのものを変える契機となり、テクノロジーを用いた新たな日常の構築が求められています。

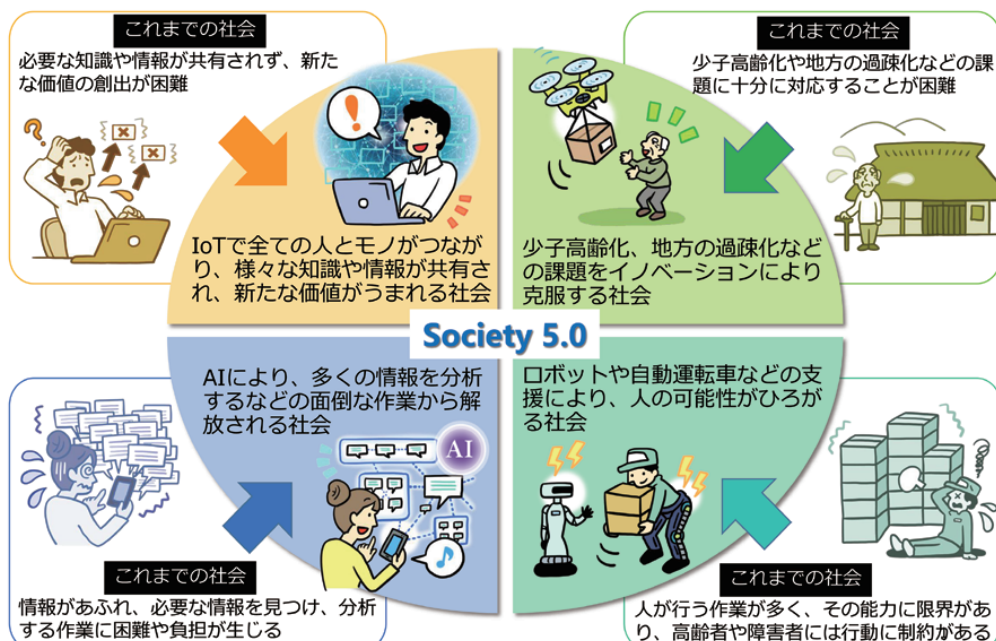
第4次産業革命技術がもたらす変化/新たな展開
出典:日本経済再生本部「未来投資戦略2018概要(要約版)」



- 国は、2016年に策定した「第5期科学技術基本計画」の中で、人々に真の豊かさをもたらす未来社会として「Society5.0(超スマート社会)」を掲げています。また、2021年には、その実現に向けた具体的な取り組みを整理した「第6期科学技術・イノベーション基本計画」を策定するとともに、「成長戦略実行計画」においてSociety5.0の実現に向け、「新たな成長の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備」として、デジタル庁を中心としたデジタルトランスフォーメーション(DX)による社会変革の推進が掲げられています。

Society5.0で実現する社会

出典:内閣府「Society5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」

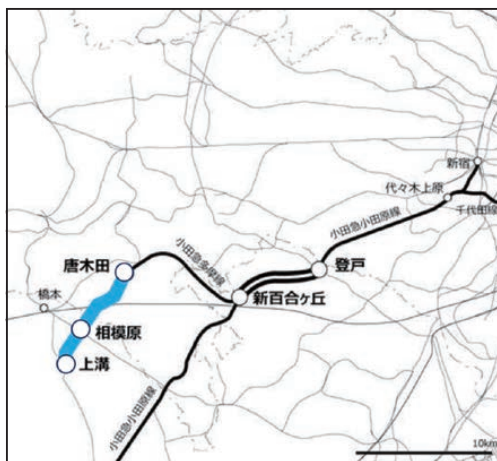


(3)都市構造の変化

<小田急多摩線、多摩都市モノレールの延伸>

- 2016年4月、国土交通省交通政策審議会の「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申の中に、現在、新百合ヶ丘から唐木田まで運行中の小田急多摩線の延伸(唐木田～相模原～上溝)と、上北台から多摩センターまで運行中の多摩都市モノレール(多摩センター～町田)の延伸が盛り込まれています。両路線の延伸の意義として、小田急多摩線の延伸では、町田市及び相模原市と都心部とのアクセス利便性の向上、多摩都市モノレールの延伸では、多摩地域の主要地区間のアクセス利便性の向上がうたわれています。

小田急多摩線延伸 計画概要
出典:町田市都市づくりのマスタープラン



多摩都市モノレール延伸 計画概要
出典:町田市都市づくりのマスタープラン



<リニア中央新幹線の開業>

- リニア中央新幹線は、東京・名古屋間の開業に向け、現在営業・建設主体である東海旅客鉄道株式会社(JR東海)によって整備が進められており、JR東海が2013年9月に公表した環境影響評価準備書の中では、中間駅の1つが近隣の相模原市の橋本駅付近に設置されることが示され、2014年10月には全国新幹線整備法に基づく工事実施計画が認可されています。

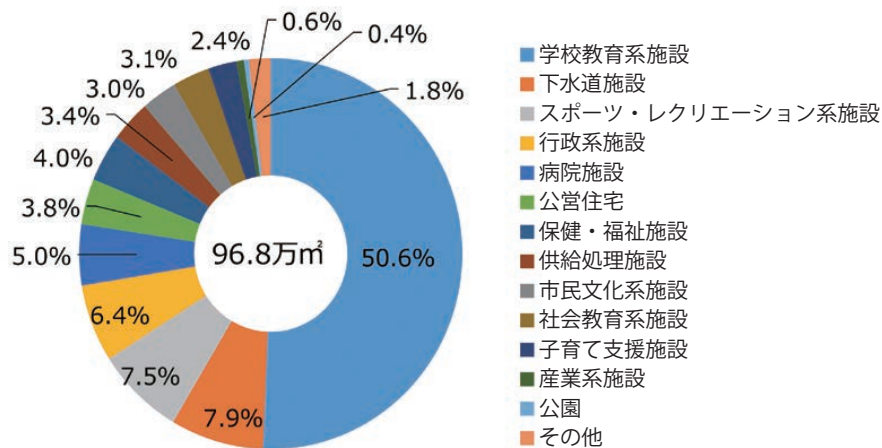


(4)公共施設の老朽化

- 町田市は、1960年代後半～1980年代前半にかけて学校教育系施設を中心に多くの公共施設を整備してきました。施設分類別の延床面積では、総延床面積96.8万㎡のうち、学校教育系施設が50.6%と過半数を占めています。また、築年数別の延床面積では、築30年以上の施設が54.1%と半数を超え、市全体として老朽化が進んでいます。

町田市における公共施設の施設分類別延床面積の構成比(2016年度末)

出典:みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画



町田市における公共施設の建築年別延床面積割合(2016年度末)

出典:みんなで描こう より良いかたち 町田市公共施設再編計画

